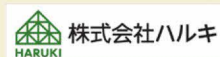




株式会社ハルキ



ハルキは「道南杉ハル壁シリーズ」など、北海道の「地材地消」を体現する製品を作っています。事業の柱のひとつである木育は、地域や子どもたちをつないでいます。



問合せ先 <https://mori-haruki.co.jp/>
TEL.01374-2-5057



製材工場見学

地元の幼稚園から小、中、高校、大学からも依頼がありますね。実際に木がどのように加工されて出荷されるようになるのかというところまで見学してもらいます。コロナ前はだいたい月に1回くらいの依頼がありましたが、あまりにもコロナの時期が長くなったので、オンラインでの工場見学も始めました。幼稚園や小学校とオンラインで結んでやるんですが、結構うまくいっています。



木育に対する会社の姿勢

根底にあるのは、おそらく会長の意思だと思います。うちの会社は「製材」と「集成材」と「プレカット」という3事業をやっているんですけど、昔から地域材へのこだわりが強く、社有林を持っているということもあって、なんとか地域材を広めていこうという思いで日々活動しています。「木育」という新しい切り口を得たことで、新しい方々との接点が増え、事業に関わるひとつの柱として、積極的に木育活動も進めていこうとしています。



木育をはじめたきっかけ

15年くらい前に渡島総合振興局の林務課さんの方から依頼がありまして幼稚園児が製材の工場を見たいということで受け入れをしたのがきっかけですね。



オンライン

木育ワークショップ
in シエスタハコダテ

最近、函館の無印良品さんでオンラインでの木育ワークショップをやらせていただいています。子どもたちの反応はとても良く、ものづくりというのはやっぱり楽しいということを実感してもらえていると思います。



天板交換プロジェクト

7年前から地元の森小学校で行っています。子どもたちが使っている学校の机の天板を地元の道南スギの材料に変えるというプロジェクトで、ただ単に変えるだけじゃなくて、最初には木育教室を行って森林の状況とか天板がどのように作られているかという工程を学んでもらいます。その後自分たちの手でネジを外して付けて最後に塗装して仕上げという工程です。

スギの天板は年々使っていくうちにどうしても傷がつかってしまうので、今度はメンテナンスをするというプロジェクトも立ち上げました。子どもたちが自分たちの手でヤスリをかけてメンテナンスするという内容で毎年やっています。6年生が卒業しても次の1年生に使ってもらうという形で続いています。



5年先10年先の予定

オンラインが結構うまくいってるので、今後も続けていきます。ただ、その反面、直接会って実際に一緒にやるということもやはり重要だと思うので、それも進めていかなきゃいけないなとも思っています。

できれば、学校の先生に木育というものを知ってもらって学校内に取り入れていただくとか、我々が学校に出向いて行って授業をするとかをやっていきたいと思っています。



道立北の森づくり専門学院での講義

今、木育のサイト、木育マスターの人がワークショップの材料を購入できるようなサイトを立ち上げようと考えています。それと木育を進める人たちの人材育成ですね。今マスターの方も11期まで来ていますが、1期生の私がいつまでもやっているというわけにもいかないので、ちょっと若い人たちにバトンタッチしていきたいという思いがあります。そういう若い人たちを育成していくことに少し力を入れていくつもりです。



取締役企画・開発部部长
鈴木正樹さん
木育マスター1期生
日本全国スギダラケ倶楽部
道南支部長